

破產法

司法部
第三一八號
寄贈圖書文庫

完

XB
H
1

大
250

破産法

目次

| | | |
|-----|----------|-----|
| 第一卷 | 破産宣告 | 一 |
| 第二卷 | 破産ノ効果 | 六 |
| 第三卷 | 別除權 | 十三 |
| 第四卷 | 警備處分 | 二十三 |
| 第五卷 | 財團ノ管理及變價 | 二十七 |
| 第六卷 | 債主 | 四十一 |
| 第一款 | 要求ノ届出及確定 | 同 |
| 第二款 | 特種ノ債主 | 四十七 |

XB500
H 5
|

第三款 債主集會

五十丁

第七卷 寬假契約

五十三丁

第八卷 配當

五十九丁

第九卷 有罪破産

六十二丁

第十卷 一身上ニ係ル破産ノ結果

六十六丁

第十一卷 支拂猶豫

七十一丁

二

破産法

第一卷 破産宣告

第一條 凡商事ヲ爲シ支拂ヲ停止シタルモノ

ハ本人ノ申立又ハ債主一名若クハ數名ノ申

立ニ依リ又ハ職權ニ依リ裁判所ノ判決ヲ以

テ破産ヲ宣告セラル可シ

第二條 支拂停止ハ商事ヲ爲ス者ヨリ合名會

社又ハ取締役ヲ置カサル合資會社ニ在テハ

總社員ヨリ其日ヨリ十日内ニ書面又ハ口供

ヲ以テ其管轄裁判所ニ届出ツ可シ此届出ヲ

一

爲スニハ支拂停止ノ理由ヲ具シ貸借對照表

及商業帳簿ヲ差出スヲ要ス

貸借對照表ニハ左ノ件々ヲ記載ス可シ

一 動産不動産及要求權利ノ存スル全財

産ノ數量及價額

二 全負債ノ數量及價額

三 損益ノ槩要

四 毎月ノ一身及一家ノ經費

第三條 破産宣告書(第一條)ニハ左ノ件々ヲ掲

ク可シ

一 支拂停止ノ時日

二 主任裁判官一名及破産管財人一名若

クハ數名ノ任命

三 破産財團管保ノ爲メニ必要ナル處置

ノ命令

四 破産者ノ負債者若クハ財團ニ屬スル

物件ノ現有者ニ對スル差押ノ命令

五 破産者ノ總債主ヲシテ三月乃至六月

内ニ其要求ヲ主任裁判官ニ届出テシ

ムルノ催促

六 調査ノ期日及債主ノ集會期日

破産宣告書ハ之ヲ檢事局ニ差出ス可シ

第四條 破産宣告ハ直チニ裁判所ノ揭示板并

ニ破産者ノ店前ニ掲ケ及其地ノ官誌ニ載セ

之ヲ公告シ且假リニ其執行ヲ爲ス可キモノ

トス

此公告ハ官報ニモ亦載ス可キモノトス

破産者ノ財産破産處分ノ費用ヲ償フニ足ラ

サルトキハ裁判上ノ破産處分ヲ中止スルモ

ノトス

第五條 主任裁判官ハ總テノ破産處分ヲ管理

監督スルモノニシテ其指令ハ假ニ執行スヘ

キモノトス然レモ此指令ニ對シテハ十四日

ヲ超エサル期限内ニ其裁判所ニ伸訴スルコ

トヲ得可シ其伸訴ノ判決ニ對シテハ控訴ヲ

爲スコトヲ許サス

破産ニ關スル事務ハ勉メテ速ニ處分セサル

可ラス

第六條 檢事局ハ職權ヲ以テ破産者犯罪ノ有

無ヲ捜査シ之レカ爲メニ商業帳簿其他書類

ノ展閱ヲ要求スルヲ得

第二卷 破産ノ効果

第七條 破産宣告ニ依リ破産者ハ其破産處分
中自己ノ財産ノ現有權及其管理處分ノ權ヲ
失フ○破産宣告ノ日ヨリ後ハ自ラ破産者ノ
支拂及其他權利義務ヲ生ス可キ行爲并ニ破
産者ニ向ケタル支拂ハ總テ無効タリ○破産
者ノ動産不動産ニ係ル訴訟并ニ執行ハ特リ
破産管財人原告又ハ被告ト爲リ之ヲ爲シ又
ハ繼續スルコトヲ得

第八條 賃貸料辨濟ノ爲メ破産者ノ營業用ノ

動産ニ對スル裁判執行ハ三十日間之ヲ猶豫
セサル可ラス但貸主其賃貸物取戻ノ權アル
トキハ此限ニ非ス

第九條 別除權ノ存スルニ非サレハ破産處分
中各個債主ノ爲メ破産者ノ財産ニ對シ逼迫
執行ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 破産者ノ負債未ダ辨濟期限ニ至ラサ
ルモ破産宣告ヲ以テ期限ニ到リタルモノト
ス

爲替手形ノ引受人若クハ引受ナキ爲替手形
ノ振出人又ハ約束手形ノ振出人破産ヲ爲シ
タル時其償還義務ニ對シテ前項ノ規定ヲ適
用ス可キモノトス

第十一條 財團ニ對シテハ破産宣告ノ日ヨリ
利子ヲ停止ス但書入質入等總テ先取權ヲ以
テ保證セラレタル要求ニ係ルモノハ其抵保
物ノ賣拂代金ヲ限トシテ利子ヲ得可シ

第十二條 總テ支拂停止ノ後又ハ支拂停止前
十日内ニ破産者ノ其財産中ヨリ無報酬ノ得

益ヲ他人ニ與フル權利ノ行爲殊ニ贈與、無報
酬若クハ不相應ノ報酬ヲ以テ義務ヲ引受ク
ル契約、期限ニ至ラサル負債辨償、期限ニ至リ
タル負債ノ違例辨償及舊負債ノ爲メ新ニ爲
シタル抵保ノ差入ハ財團ニ對シテハ自ラ無
効トス

第十三條 前條ノ外總テ支拂停止ノ後破産宣
告ノ前ニ於ケル破産者ノ支拂及權利ノ行爲
ニシテ財團ノ損失トナルモノハ相手方ニテ
支拂停止ノ旨ヲ了知シタルトキニ限り財團

計算ノ爲メニ之ヲ異議スルコトヲ得
 爲替支拂ノ場合ニ於テ手形ヲ振出シ又ハ振
 出サシムルノ際支拂停止ノ旨ヲ知リタル振
 出人又ハ振出委托人ヨリ又約束手形ニ在テ
 ハ第一ノ裏書人ヨリ其支拂フタル金額ヲ償
 還ス可シ

第十四條 正當ニ所得シタル書入質主權及其
 他之ト同一ナル權利ハ其所得ノ時ヨリ十五
 日ヲ經過セサルモノハ支拂停止後破産宣告
 ノ日マテ登記ヲ爲スコトヲ得

第十五條 破産宣告ノ時ニ破産者及其相手ノ
 未タ履行セス或ハ履行ヲ終ラサル雙務契約
 ハ一方ヨリ無賠償ニテ解約スルヲ得但賃貸
 契約若クハ勞役ノ契約ニ在テ解約期限ニ就
 キ協議調ハサルトキハ法律上或ハ土地慣習
 上ノ豫告期限ニ據ル可シ
 履行ヲ終ラサル場合ニ於テハ破産者ニ對ス
 ル債主ノ金額要求ハ他ノ破産要求ト同一ニ
 請求スルヲ得

第十六條 一方ノ契約者其義務ヲ盡サ、ルカ

爲メニ契約ヲ解除シ又ハ既ニ爲シタル供給
ヲ取戻スノ權利ハ破産財團ニ對シ之ヲ施行
スルコトヲ得ス

第十七條 抵填ノ權アル債主ハ期限ニ至ラサ
ル要求或ハ金額ノ定ラサル要求ト雖モ財團
ニ對シテ其權ヲ及スコトヲ得○一方ノ要求
權破産宣告後若クハ支拂停止ノ後初メテ生
シ或ハ所得セラレタルモノニ付テハ抵填ヲ
爲スコトヲ得ス但シ其支拂停止ノ後ニ係ル
モノニ付テハ債主若クハ負債者支拂停止ノ

旨ヲ知得シタルモノニ限ル可シ

第十八條 債主ニ損失ヲ加フルノ目的ヲ以テ
負債者ノ爲シタル權利ノ行爲ニシテ其相手
方情ヲ知リタルモノハ日附ノ如何ヲ問ハス
異議スルコトヲ得

第三卷 別除權

第十九條 負債者ノ動産若クハ不動産ニ對シ
書入質權質主權其他ノ先取權ヲ有スル債主
財團ヨリ全額ノ辨償ヲ受ケサルトキハ其抵
保物件ノ賣拂代金ヨリ費用、利子及ヒ元金ノ

要求ニ就テ別除ノ辨償ヲ請求スルヲ得○賣
 拂代金ノ過剩ハ買主ヨリ財團ニ拂込ム可シ
 但買主ニ於テ其物件ノ賣拂破産債主ノ爲メ
 ナリシコトヲ知リタル時ニ限ルモノトス

第二十條 先取權ヲ有スル者左ノ如シ

- 一 政府及地方官署ハ現時及未納ノ租稅
 其他公費及手数料ノ爲メ法律ニ依リ
 牽制ヲ以テ徵收ヲ爲ス可キ物件ニ對
 シ其權ヲ有ス

二 家屋貸主ハ現時及未濟ノ家賃并ニ其

貸借契約ヨリ生スル他ノ要求ノ爲メ
 借屋人又ハ復借屋人ノ賃借物使用ノ
 爲メ持込タル物件ニシテ未タ他ニ轉
 搬セサルモノニ對シ其權ヲ有ス但復
 借屋人復貸主ニ對シ未タ義務ヲ盡サ
 ルキニ限ル

三 借屋人ハ其貸借契約ヨリ生シ貸主ニ
 對スル要求ノ爲メ貸主ニ屬スル家屋
 附屬品ニシテ自己ノ現有ニ存スルモ
 ノニ對シ其權ヲ有ス

- 四 農作地ノ貸主ハ現時及未済ノ地代并ニ其貸借契約ヨリ生シ借地人若クハ復借地人ニ對スル他ノ要求ノ爲メ土地ノ收穫物及此等ノ者ノ借地使用ノ爲メ持込タル物件ニシテ未タ其地所ヨリ他ニ轉搬セサルモノニ對シ其權ヲ有ス
- 五 借地人ハ其貸借契約ヨリ生シ貸主ニ對スル要求ノ爲メ貸主ニ屬スル物件ニシテ自己ノ現有ニ存スルモノニ對

シ其權ヲ有ス

- 六 建物構造又ハ森林仕立ノ爲メ地所ヲ貸付タル土地所有主ハ現時及未済ノ要求ノ爲メ地表權ヲ有スル者ニ對シ其建物又ハ竹木ニ就キ其權ヲ有ス
- 七 旅宿ノ主人ハ旅籠料並ニ之ニ牽連シタル他ノ要求ノ爲メ客人ニ屬スル物件ニシテ未タ他ニ轉搬セサルモノニ對シ其權ヲ有ス
- 八 法律ニ依テ留置權アル者ハ其物件ニ

對シ先取權ヲ有ス

- 九 傭人勞役者及商業助手ハ破産宣告ノ日ヨリ前一ヶ月間ノ未收賃料ノ爲メ又醫師藥劑營業人及其他最近ノ病ニ就テノ療治費用看護費用及埋葬費用ノ要求アル者ハ之レカ爲メ破産者ノ總動産ニ對シ其權ヲ有ス

第二十一條 別除權相互ノ順序ハ左ノ如シ

- 一 第二十條ニ記載シタル先取權ハ書入權及質權ニ先ツモノトス

- 二 第二十條ニ掲ケタル先取權相互ノ順序ハ該條ニ示シタル列序ニ從フモノトス

- 三 同級ニ屬スル權利ハ平等ノ比率ヲ以テ之ヲ償フ可キモノトス

- 四 書入權ノ順序ハ官簿ニ登記シタル時日ニ依テ定ルモノトス

- 五 同一ノ物件ニ對シ數多ノ質權アルキ其質權ノ次序ハ先ツ物件ノ現有ヲ以テ之ヲ定メ若シ數人互ニ現有者ト看

做サル可キ時ハ其現有ノ最先ヲ以テ
之ヲ定ム

或ル要求ノ爲メ其順序ヲ異ニスル特別ナル
法律上ノ規定ハ本條ノ規定ト併ヒ行ハル、
モノトス

第二十二條 別除權アル者ニ財團ヨリ辨償ス
ルニハ其未濟ノ要求高ニ對シタル均一ノ割
合ヲ以テス可シ

第二十三條 負債者支拂停止ノ後ニ遺產相續
ヲ爲シタルトキハ遺產ノ債主及被贈遺者ハ

遺產トシテ尙現存スル物件若クハ負債者ニ
未タ支拂ハサル遺產物件ノ代價ニ就キ別除
權ヲ有ス

第二十四條 左ニ掲クル破産者ノ所有物件ハ
第十九條ニ依リ別除權ノ存セサルモノハ之
ヲ財團ニ加ヘ債主ノ辨償ニ供スルヲ得ス

- 一 破産者及其家族ノ爲メ其身分ニ應シ
テ缺ク可ラサル衣類寢具家具厨具
- 二 破産者及其家族ニ於テ一月ヲ支ユル
ニ必要ナル食料及薪炭

三 職工勞役者技術者官吏將校其他職務

ヲ有スル者ノ其職ヲ自カラ營ムニ必

要ナル器具其他ノ物件

四 賃錢或ハ給金ニシテ生活ヲ支フルニ

必要ナル金額

五 救助及其他惠恤セラレタル物件

六 官吏及將校ノ職務上ノ收入ニ付テ官

廳ニ於テ定ムル金額

七 勳章其他榮譽ノ記章

世襲領地及世襲財産ニ就テハ其關係ノ法

律ニ依ル

第四卷 警備處分

第二十五條 破産宣告ト共ニ裁判所ハ破産者

ヲ留置シ若クハ監視シ併ニ其動産ヲ封印ス

ルノ處分ヲ爲ス可シ

破産者逃走シ又ハ逃走セントシ若クハ其財

産ヲ隱匿スルトキハ債主一名若クハ數名ノ

申立ニ依リ或ハ職權ニ依リ破産宣告前ニ於

テモ其地警察署ニテ此處分ヲ爲スコトヲ得

會社ノ場合ニ在テハ連帶責任アル各社員ノ

身体及財産ニ此處分ヲ爲ス可シ

第二十六條 負債者第二條ノ規定ヲ履踐シ且
之ヲ留置或ハ監視スルノ事由アラサルトキ
ハ先ツ之ヲ差措クコトヲ得然レモ後日時ヲ
論セス職權ニ依テモ前條ノ處分ヲ爲スユト
ヲ得○負債者ハ裁判所ノ許可ナクシテ其住
地ヲ去ルヲ得ス又裁判所ハ時ヲ論セス負債
者ヲ引致セシムルコトヲ得

第二十七條 留置シタル負債者ノ釋放ハ處刑
或ハ監視スルノ事由既ニ存セサルトキ裁判
所ノ決議ヲ以テ之ヲ爲ス可シ然レモ裁判所
ハ何回ニテモ裁判所又ハ管財人ノ呼出ニ即
時應スル爲メノ保證ヲ立テシムルコトヲ得
保證物件ノ沒收セラレタルモノハ財團ニ繰
込ム可シ

第二十八條 封印ハ管財人負債者ノ財産ヲ財
産目録ニ載セ現有シタル時ハ直ニ之ヲ解ク
可シ○第二十四條ニ掲ケタル物件并直ニ變
價シ或ハ財團ノ爲メニ續テ利用スルヲ封
印ノ爲メニ妨ケラル、物件ハ封印ヲ施スヲ

要セス其利用スル物件ハ直ニ財産目録ニ載
セ管財人ノ現有ニ歸ス可シ○負債者ノ商業
帳簿及取引帳簿ハ直ニ管財人ニ引渡シ當該
官吏其形狀ヲ檢定ス可シ○特別高價ノ物件
ハ直ニ管財人ニ引渡シ或ハ一時裁判所ニ引
取ルコトヲ得可シ

第二十九條 差押ノ命令ニ依リ破産者ニ負債
アル者若クハ財團ニ屬スル物件ヲ現有スル
者ハ其支拂又ハ引渡ヲ管財人ニ向ヒ爲ス可
キノ督促ヲ受タルモノトス○其物件ニ就テ

別除權ヲ行ハントスル者ハ之ヲ管財人ニ申
出テ管財人ノ請求アレハ其物件ノ評價ヲ爲
サシム可シ○破産者ニ宛テタル電信書狀及
其他ノ送達物ハ管財人ニ引渡ス可シ其財團
ニ關繫ナキモノハ管財人ヨリ破産者ニ附與
ス可シ

第三十條 主任裁判官ハ破産者及其家族ニ財
團ヨリ扶助料ヲ與ルコトヲ得

第五卷 財團ノ管理及變價

第三十一條 司法卿ハ裁判所ノ推薦及商法會

議所アル地ニハ其會議所ノ推薦ニ依リ各裁判區ニ要スル員數ヲ限リ職務トシテ事ニ任ス可キ熟事者ヲ命シ其人員中ヨリ管財人ヲ任スルヲ通則トス

熟事者ヲ命スルハ五年毎ニ之ヲ爲シ期滿ルトキハ再命スルコトヲ得又何時タリトモ之ヲ解命スルコトヲ得可シ○管財人トナリタル熟事者再命セラレサルモ既ニ着手シタル管財事務ハ之ヲ終結セサル可ラス

第三十二條 管財人ノ執勞ニ對スル報酬ハ財

團ヨリ先ツ之ヲ支辨ス其額ハ司法卿ノ令シタル費目表ニ依リ破産裁判所之ヲ定ム

第三十三條 裁判所ハ何時ニテモ管財人ヲ引キ代ヘ又ハ他ノ管財人ヲ加ブルコトヲ得

第三十四條 管財人ノ行爲ニ就キ其責任ハ普通代人タルモノ、責任ト同一ナリトス○管財人數名ナルキハ共同ニアラサレハ事ヲ執ルコトヲ得ス但主任裁判官ヨリ管財人各個ニ特別ノ管財事務ヲ任シタルトキハ此限ニ

アラス

第三十五條 管財人ハ破産宣告後遅延ナク財

團ヲ現有シ其管理及變價ニ着手ス可シ

管財人ハ破産者ニ執務ノ補助ヲ請求スルコ

トヲ得主任裁判官ハ之ニ對シ破産者ニ報酬

ヲ與ルコトヲ得可シ

第三十六條 管財人ハ主任裁判官ノ監督ニ屬

シ其指揮ニ從フ可シ管財人ノ行爲若クハ決

斷ニ對スル故障申立ハ主任裁判官之ヲ判決

ス此判決ハ假リニ執行ス可キモノトス

第三十七條 財産目録ハ裁判所職員或ハ其地

警察官ノ立會ヲ以テ管財人之ヲ調製スルモ

ノトス必要アレハ破産者ヲモ之ニ立會ハシ

ム可シ○財産目録ニハ總テ破産者ニ屬スル

財産ハ假令ヒ財團ニ組入ル可ラサルモノト

雖モ之ヲ記載シ其價額ヲ附記ス可シ但必要

ナルトキハ鑑定人ヲシテ其價額ヲ評定セシ

ムルコトヲ得

財産目録及財産目録調製ノ際ニ作りタル口

供書ノ公證ヲ經タル謄本ハ裁判所ニ置キ公

衆ノ展閲ニ供ス可シ

檢事局ハ要スル場合ニ於テ職權ヲ以テ財産
目録ノ調製ニ立會フコトヲ得

第三十八條 破産者ニ屬セサル物件ヲ物權若

クハ人權ニ基キ財團ヨリ取戻スコトニ係ル
爭論ハ破産裁判所之ヲ裁判ス但不動産ニ係
ルモノハ其不動産所在地ノ裁判所之ヲ裁判
ス

殊ニ左ニ掲クルモノハ之ヲ取戻スコトヲ得

一 商品又ハ其他ノ物品ニシテ支拂不能
力ノ前又ハ賣主ノ之ヲ聞知セサル前

ニ於テ取結タル賣買契約ニ基キ破産
者ニ送出シ破産者若クハ其指名者ニ
於テ未タ受取ラサルモノ但第三者善
意ヲ以テ既ニ之ヲ買得シ又ハ質ニ取
リタルモノハ此限ニアラス

二 商品又ハ其他ノ物品ニシテ寄藏又ハ
賣拂ノ爲メ破産者ニ送付シ破産者又
ハ其指名者ノ現有ニ存スルモノ
該商品又ハ其他ノ物品既ニ賣却セラ
レタルトキハ其代價ニシテ支拂若ク

ハ抵填又ハ他ノ方法ニ依テ買主ト破
産者トノ間ニ於テ清算セラレサルモ
ノ

三 手形及債券ニシテ寄藏若クハ取立又
ハ指定シタル支拂ノ爲メ破産者ニ送
出シ未タ金額ニ變換セスシテ破産者
ノ現有ニ存スルモノ
金額ニシテ寄藏若クハ指定シタル支
拂又ハ交互計算ノ爲メ破産者ニ送出
シ未タ到達セス若クハ到達ノ後ト雖

モ未タ破産者ノ計算ニ移サヌ又ハ其
他ニ處分セラレサルモノ

第三十九條 管財人ハ主任裁判官ニ於テ定ム

ル三十日ヲ超ヘサル期限内破産者ヨリ差出
シタル届書及貸借對照表ヲ審査シ若シ破産
者ヨリ之ヲ差出サ、ルトキハ自ラ貸借對照
表ヲ調製シ之ニ報告書ヲ添ヘテ主任裁判官
ニ差出ス可シ○貸借對照表及報告書ノ公證
ヲ經タル謄本ハ裁判所ニ於テ公衆ノ展閱ニ
供ス可シ○此報告書及對照表ハ之ヲ檢事局

ニ差出ス可シ

第四十條 貸方ノ借方ニ超ユルコト判然シタルトキ或ハ寛假契約ノ見込アル間ハ裁判所ハ主任裁判官ノ申立ニ依リ且管財人ノ意見ヲ聞キタル後其決定ヲ以テ之ニ破産者ノ營業ヲ續行セシムルコトヲ得○此場合ニ於テ尋常營業外ニ財團ニ屬スル物件ヲ賣却スルコトハ主任裁判官ノ認可ヲ經且前以テ破産者ノ意見ヲ聞テ之ヲ爲ス可キモノトス

第四十一條 不動産ハ主任裁判官ノ認可ヲ受

ケ且豫メ評價ヲ爲シタル後第一回ノ公賣手續ヲ爲シ又十四日以内ニ於テ第二回ノ公賣ヲ爲シテ之ヲ賣拂フ可シ若シ評價額ニ達セサルトキハ第三回ノ公賣手續ヲ爲シ此公賣ニ於テハ必ス最高價ノ申入人ニ賣渡スモノトス
 動産ハ公賣ニ付スルヲ通則トスレモ主任裁判官ノ許可ヲ得タルトキハ相對ニテ賣拂フコトヲ得

第四十二條 管財人ハ破産者ノ財産普通管理

ニ付左ノ責任ヲ負フモノトス

一 總テ財團ニ屬スル破産者ノ貸方ヲ取立ル事

二 總テ負債者其他ノ人ニ對スル破産者ノ權利ヲ實行且保全スル事

三 左ニ掲クル事項ニシテ其金額百圓以上ナルモノニ付テハ破産者ノ意見ヲ聞キ主任裁判官ノ認可ヲ經ルヲ要ス

一 訴訟ヲ爲ス事

一 寬假契約或ハ仲裁ノ契約ヲ結フ事

一 質物ヲ受戻ス事

一 債主權ヲ移轉スル事

一 遺産相續或ハ贈遺ヲ拒絕スル事

一 消費借ヲ爲ス事

一 地所ヲ買入ル、事

一 權利ヲ抛棄スル事

一 總テ財團ノ爲メ新タニ義務ヲ負擔スル事

第四十三條 財團ニ收入スル金額ハ管理上ノ

常費ニ充ツルモノ、外直ニ之ヲ破産裁判所

ニ又ハ主任裁判官ヨリ指定スル銀行ニ預ク
可シ其金額ハ主任裁判官ノ命アルニ非レハ
支出スルコトヲ許サス

第四十四條 管財人ハ其管理中破産者有罪ノ
行爲アルコトヲ知得シタルトキハ之ヲ主任
裁判官ニ申告スルノ義務アルモノトス其裁
判官ハ之ヲ檢事局ニ移ス可シ

第四十六條 主任裁判官ハ破産ノ原因事情貸
方借方并ニ其對照表其他管財及破産處分ニ
關スル事件ニ就キ訊問ヲ爲ス爲メ何時ニテ

モ破産者其商業使用人雇人及其他ノ關係者
ヲ呼出スコトヲ得

第六卷 債主

第一款 要求ノ届出及確定

第四十七條 破産者ノ總債主ハ破産宣告ノ公
告ヲ以テ之レカ爲メ定メタル届出期限内ニ
其要求ヲ財團ヨリ除斥セラレサル爲メ主任
裁判官ニ届出ルコトヲ督促セラレタルモノ
トス○其届出ニハ權利ノ起源、要求金額、別除
權又ハ先取權アル者ハ其權利ヲ明記シ及證

據書類或ハ其謄本ヲ添フ可シ

他所ニ住スル債主ハ裁判所々在地ニ代人ヲ立居ク可シ

要求ノ届出及代人ノ任定ハ書面或ハ口供書ヲ以テス可シ書面ナルトキハ二通ヲ差出ス可シ

其他所在分明ナル債主ニハ裁判所ヨリ特別ニ書狀ヲ以テ其要求ノ届出ヲ督促ス可シ然レモ其書狀ヲ受取ラサルカ爲メ損害賠償ヲ要求スルヲ得ス

第四十八條 届出アルトキハ直ニ番號ヲ付シ二個ノ一覽表ニ記載ス可シ其一ハ特權アル要求トシ其二ハ通常ノ要求トス此兩表ハ裁判所ニ於テ公衆ノ展閲ニ供ス可シ管財人ハ其使用ノ爲メ届出及一覽表ノ謄本ヲ受クルモノトス

第四十九條 調査ハ管財人ト可成ハ破産者トノ立會ヲ以テ主任裁判官之ヲ爲シ其事務ハ筆記ニ取り置ク可シ○債主ハ自身又ハ代人ヲ以テ調査ニ参加スルヲ得○主任裁判官ハ

債主ヲシテ其商業帳簿若クハ其抜書ヲ差出
 サシムルヲ得○調査ノ結果ハ前條ノ一覽表
 及負債證書ニ附記シ且債主又ハ其代人ニ開
 示ス可シ
 調査期日ハ届出期限ノ經過シタル後十日乃
 至十五日内ニ於テスルヲ通則トス
 届出期限經過ノ後ニ届出テタル要求モ同シ
 ク調査期日ニ之ヲ調査スルヲ得但之ニ對シ
 故障ノ申立アリタルトキ并ニ調査期日後ニ
 届出タルトキハ該債主ノ費用ヲ以テ更ニ調

査ヲ爲ス可シ

第五十條 要求ハ是認或ハ裁判上ノ判決ヲ以
 テ確定ス○調査期日ニ於テ管財人及要求ノ
 確定シタル債主并ニ貸借對照表ニ載セラレ
 タル債主ノ異議ナキトキハ其要求ハ是認セ
 ラレタルモノトス○管財人ノ要求アル場合
 ニ於テハ其確定又ハ故障ニ付テハ主任裁判
 官管財人ニ代リ其處置ヲ爲ス可シ

第五十一條 要求ニ異議アルトキ該債主其要
 求ヲ取解スルニ非レハ破産裁判所ハ公廷ヲ

開キ雙方ヲ審問シ證人ヲ訊問シ其他證據物
ヲ審査シタル後可成丈諸要求ヲ一括シテ主
任裁判官ノ具狀ニ據リ之ヲ判決ス可シ雙方
出頭セサルモ開廷スルモノトス

第五十二條 判決ハ可及丈債主ノ集會以前ニ
下ス可シ若シ然ルヲ得ス或ハ其判決ニ對シ
テ控訴スルトキハ裁判所ハ其債主ヲ集會ニ
參與セシム可キヤ又幾許ノ金額ノ債主トシ
テ之ニ參與セシム可キヤヲ定ム可シ
特ニ先取權或ハ別除權ニ就テ異議ヲ受ケタ

ル債主ハ通常ノ債主トシテ集會ニ參與セシ
ム可シ

第五十三條 規定ノ時期ニ於テ其要求ヲ届出
テス若クハ確定セラレサル債主ハ爾後ノ確
定ニ依テ爲ス財團配當ニノミ加ハルヲ得然
レモ異議ヲ受ケ訴訟中ニ在ル要求及届出并
ニ調査ノ爲メ後ノ期限ヲ定メラレタル國外
債主ノ要求ノ爲メニハ以前ノ配當ニ於テ其
受ク可キ割前ノ金額ヲ留置ス可シ

第二款 特種ノ債主

第五十四條 本負債者ノ破産ニ付テ届出タル

要求ハ寛假契約ノ場合タリトモ保證人其他

共同義務者ニ對シテモ其全額ニ就テ申立ル

コトヲ得

共同義務者ハ本負債者ノ破産ニ於テ其償還

要求ヲ届出ルコトヲ得然レモ本負債者ノ爲

ニ爲シタル寛假契約ノ効果ニ從ハサル可ラ

ス

第五十五條 共同義務者數人破産シタルトキ

ハ其各財團ニ對シテ要求ノ全額ヲ届出ルコ

トヲ得其各財團間ニ於テハ償還要求權ヲ行

フヲ得ス然レモ債主ノ受クル割前ノ合計

元金ニ付屬金ヲ合セタル要求ノ全額ニ超過

スルトキハ其過剩ハ他ノ共同義務者ニ對シ

テ償還要求權ヲ有スル者ノ財團ニ歸ス

第五十六條 左ニ掲クル要求ハ届出及確定ニ

付テノ規則ニ依ラス

一 破産處分上ノ裁判管財其他ノ費用

二 公ケノ手数料及税金

三 財團ノ爲メ管財人ノ負擔シタル義務ヨ

リ生スル要求

右ハ主任裁判官ノ指令ニ依リ通常ノ方法ヲ以テ財團ノ現額中ヨリ支拂フ可シ

第五十七條 破産者ニ科セラレタル罰金及破産處分ニ加ハルカ爲メ債主ニ生シタル費用ハ破産處分上之ヲ要求スルヲ得ス

第五十八條 有夫ノ婦ハ明約或ハ判然タル慣習ニ依リ自己ニ所有權アルトキニ限り夫ノ財團ニ對シテ其要求ヲ爲スコトヲ得

第三款 債主集會

第五十九條 債主集會ハ主任裁判官之ヲ召集管理ス○召集ハ會議ノ事項ヲ記シタル公告ヲ以テス○此集會ニ加ハル者ハ管財人及要
求ノ確定ヲ受ケ若クハ第五十二條ニ依リ假
リニ許容セラレタル債主トス○債主ハ代人
ヲ出スヲ得○集會ニハ破産者ヲ呼出スコト
ヲ得

先取權或ハ別除權ノミニ就キ異議ヲ受タル者ハ通常ノ債主トシテ參會ス

第六十條 集會ノ決議ハ出席人員ノ過半數ニ

シテ其要求金額ノ半額以上ニ當ルモノヲ以テスルヲ通則トス

第六十一條 集會ニ於テ主任裁判官ハ從來ノ處分ニ就キ報告ヲ爲シ管財人ハ管理ノ方法其結果并ニ財團ノ現況ニ就キ報告ヲ爲ス可シ○集會ハ此報告ニ就キ議決シ又主任裁判官又ハ管財人ノ考案ニ就キ及債主ノ申立又ハ主任裁判官ノ許可ヲ得テ爲シタル破産者ノ申立ニ就キテ議決ス可シ○此議決ハ裁判所ノ許可ヲ受ク可キモノトス

第七卷 寬假契約

第六十二條 破産者法律ニ規定シタル義務ヲ履行シ有罪破産ノ判決ヲ受タルニ非ス又審問中ニ在ルニ非サルモノハ主任裁判官ノ許可ヲ受ケ第一集會ニ於テ債主ニ寬假契約ヲ申出ルヲ得又以後ノ集會ニモ充分ノ理由アルトキハ之ヲ申出ルヲ得ト雖モ寬假契約ノ申出ハ唯一回ニ限ルモノトス

第一集會ハ普通ノ調査期日ヨリ四週ノ後之ヲ開クモノトス○寬假契約ノ考案ハ公衆ニ

示ス爲メ少クモ二十日以前ニ裁判所ニ差出シ之ヲ公告ス可シ

第六十三條 寬假契約ノ承諾ハ集會出席人員ノ過半數ニシテ發言權アル要求ノ全額四分三以上ニ達スルヲ要ス
發言權ハ財團ヨリ平等ノ割合ヲ以テ辨償ヲ受ク可キ債主ニ限り之ヲ有シ特權アル者ハ之ヲ棄捐シタルトキニ限り之ヲ有スルモノトス

管財人及發言權アル債主并ニ後レテ要求ノ確定ヲ受タル債主ハ十日内ニ寬假契約ニ對スル異議ヲ理由ヲ付シテ裁判所ニ申立ルコトヲ得

第六十四條 債主ノ承諾ヲ得タル寬假契約ハ裁判所ノ認可ヲ得テ始メテ効力アルモノトス其認可ノ決定ハ主任裁判官ノ供述ニ依リ職權ヲ以テ前條ニ掲ケタル期限經過ノ後直ニ之ヲ爲ス可シ

破産者及總テ異議申立ノ權アル者ハ寬假契約ノ認可セラレタルト棄却セラレタルトナ

問ハス其決定ニ對シ控訴スルコトヲ得

第六十五條 左ノ場合ニ於テハ寬假契約ヲ棄

却ス可シ

一 第六十二條及第六十三條ニ定タル規則

ヲ踐マサルトキ

二 寬假契約ノ爲メ債主中其承諾ナクシテ

不公平ノ處置ヲ受ケ損害ヲ蒙ムルモノ

アルトキ

三 詐偽其他不正ノ方法ニ由テ寬假契約ヲ

爲シタルトキ

四 公益又ハ債主一般ノ利益ニ背馳スルト

キ

第六十六條 破産者後ニ有罪破産ノ判決ヲ受

ケタルトキハ其寬假契約自ラ消滅シ其審問

中ニ在ルトキハ放免ノ申渡ヲ受ル迄停止セ

ラル、モノトス○前條第三項ニ載セタル理

由アルトキハ後ニ至リテモ寬假契約ニ對シ

異議申立ヲ爲スコトヲ得

第六十七條 寬假契約確定シタルトキハ管財

人ハ直ニ其職ヲ罷メ清算ヲ爲シ破産者ハ別

ニ寛假契約ニ定ムル所アルニ非レハ自己ノ
財産ノ引渡ヲ受ケテ自由ニ管理處分スルヲ
得但寛假契約ノ實行ハ主任裁判官ノ監視及
差配ヲ以テ之ヲ爲ス

第六十八條 寛假契約認可セラレサルトキ又
ハ後ニ消滅シ或ハ棄却セラレタルトキハ再
ヒ破産處分ヲ施シ直ニ財團ノ變價及配當ヲ
以テ其局ヲ結フ可シ但此處分ニハ其間ニ要
求權ヲ得タル債主モ參加スルコトヲ得
寛假契約ヲ履行セサル場合ニ於テハ之ヲ解

除シ前項ト同シク處分ス可シ但寛假契約ノ
爲メニ立テタル保證人其義務ヲ免ル、コト
ヲ得ス

第八卷 配當

第六十九條 第五十六條ニ掲クル要求及特權
アル要求ヲ支辨シテ殘ル所ノ財團ハ平等ノ
割合ヲ以テ其他ノ債主ニ配當ス可シ

第七十條 配當ハ普通ノ調査期日ノ後ニ於テ
財團ノ現存高相應ノ額ニ達スル毎ニ管財人
配當方案ヲ調製シ主任裁判官ノ許可ヲ受ケ

其方案ニ基キ之ヲ爲スモノトス其配當方案ハ之レニ主任裁判官署名シ公閱ノ爲メ裁判所ニ備置キ且其旨ヲ公告ス可シ○配當方案ニ對スル異議ハ公告ノ日ヨリ十四日ノ無猶豫期限内ニ裁判所ニ申立ルコトヲ得

第七十一條 配當ノ支拂ハ前條ニ掲ケタル期限内ニ配當方案ニ對シ異議ノ申立ナキトキ又ハ異議ノ申立アルモ其落着ニ至リタルトキ債主ノ提示スル負債證書ニ照ラシテ之ヲ爲シ該證書ニ其支拂額ヲ付記ス若シ該證書

ヲ提示スルコト能ハサルトキハ主任裁判官ノ認可ヲ得テ一覽表ノ登記ニ基キ支拂ヲナス但何レノ場合ニ於テモ債主ハ配當方案ニ受取證ヲ記ス可シ

第七十二條 財團ヲ變價シ及配當ノ支拂ヲ終リタルトキハ債主集會ヲ開キ管財人決算書ヲ差出ス可シ此決算ヲ議定シタルトキハ裁判所ハ主任裁判官ノ申立ニ依リ破産處分ノ落着ヲ申渡ス可シ

第七十三條 破産處分落着ノ後ハ債主其辨償

ヲ受ケサル金額ニ付負債者ニ對シ破産處分ニ於テ確定セラレタル權利ニ基キ隨意ニ其要求ヲ行フコトヲ得

第九卷 有罪破産

第七十四條 破産宣告ヲ受タル負債者支拂停止又ハ破産宣告ノ前後ヲ問ハス履行ノ意ナク又ハ履行スル能ハサルヲ知リテ商品金銭其他ノ有價物ヲ受取り義務ヲ引受タルトキ若クハ債主ニ損害ヲ被ラシムルノ意ヲ以テ(一)貸方ノ全部或ハ一部ヲ藏匿或ハ脱漏シ又

ハ借方ノ額ヲ其實ニ超ヘテ掲ケタルトキ(二)商業帳簿又ハ取引帳簿ヲ破棄藏匿或ハ其記載ヲ偽リタルトキハ詐偽破産ヲ以テ論シ懲役ニ處ス

債主財産上ノ損害些細ナルトキハ三月以上ノ禁錮ニ處スルヲ得

第七十五條 破産宣告ヲ受タル負債者支拂停止又ハ破産宣告ノ前後ヲ問ハス左ノ行爲アルトキハ懈怠破産ヲ以テ論シ二年以下ノ禁錮ニ處ス

- 一 過分ナル一身或ハ一家ノ經費、賭事、空相場或ハ不相應ノ投機ヲ以テ貸方ヲ大ニ減少シ又ハ之ニ重債ヲ負ハシメタルトキ
- 二 支拂停止ヲ遷延センカ爲メ損害ヲ生スル取引ヲ以テ支拂ノ料ヲ調ヘタルトキ
- 三 支拂停止ノ後支拂或ハ抵保ヲ爲シテ債主ノ一人ヲ利シ財團ニ損害ヲ加ヘタルトキ
- 四 商業帳簿ヲ秩序ナク記載シ或ハ藏匿シ

或ハ破棄シ或ハ全ク記載セサルトキ

- 五 開業ノ時及毎年次初メノ三ヶ月内又ハ要スルトキハ每半年ニ不動産動産ノ總財産目錄并ニ貸借對照表ヲ製シ兩ナカラ之レカ爲メ設ケタル帳簿ニ記入ス可キ法律上規定ノ義務及第二條第二十六條ニ掲ケタル義務ヲ履行セサルトキ

第七十六條 前兩條ノ罰則ハ商社ノ取締役業

務擔當人及清算人ニ又第七十四條ノ罰則ハ

破産管財人及有罪ノ行爲ヲ爲スコトニ就テ

犯者ヲ助ケ或ハ犯者ノ爲メニ其行爲ヲ爲シタル者ニモ適用ス

第七十七條 債主集會ノ可否決ニ關シ債主ノ一人若クハ數人ニ賄賂スルトキハ雙方共ニ二年以下ノ禁錮或ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十卷 一身上ニ係ル破産ノ結果

第七十八條 破産宣告ヲ受タル負債者或ハ破産シタル商社ノ連帶義務アル取締役若クハ社員ハ復權ニ至ルマテハ相場會所ニ立入り或ハ商業仲立人トナリ合名會社若クハ合資

會社ノ社員トナリ及合資會社若クハ株式會社ノ取締役若クハ業務擔當人トナリテ商業ヲ爲シ或ハ清算人破産管財人若クハ商業上ノ辨理人タルノ職ヲ執リ或ハ商法會議所ノ會員トナリ其他商業上ノ榮譽職ニ就クコトヲ許サス

第七十九條 復權ヲ得ルニハ寬假契約ノアルニ拘ハラズ元金利子及費用ヲ合セ總債主ニ其全額ヲ辨償シタルコト或ハ所在ノ知レサルカ爲メニ未ダ辨償セサル債主ニ全額ヲ辨

償スルノ用意及資力アルコトヲ證明スルヲ
要ス

復權ノ申立ニハ債主ノ請取證其他必要ノ證
據物ヲ添フ可シ

寬假契約(第六十七條)アル場合ニ於テハ債主
ニ辨償シ終リタルコトヲ證明スルニアラサ
ルモ相場會所ニ立入り又ハ其會社ヲ現在ノ
社員又ハ取締役ニ於テ繼續スルコトヲ得

第八十條 復權ノ申立アルトキ破産裁判所ハ
異議アル者ヲシテ二ヶ月内ニ異議ヲ申立テ

シメン爲メ裁判所掲示板及相場會所ニ揭示
シ且新聞紙ヲ以テ公告シ又其調査及搜索ノ
爲メ檢事ニ通知ス可シ裁判所ハ豫シメ檢事
ノ供述ヲ聞キ前條ノ證明其他法律上ノ要件
具備スルニ於テハ復權申立ヲ許可スルモノ
トス此場合ニ於テハ訴訟上ノ法式ヲ用ユル
コトナシ

右裁判所ノ判決ニ對シテハ控訴スルヲ得可
シ終審ノ判決ハ之ヲ公告ス可シ

其申立棄却セラレタルトキハ三年ヲ經過ス

ルニ非レハ之ヲ再ヒスルヲ得ス

第八十一條 復權ハ負債者死亡ノ後ニ於テモ

破産シタル商社ノ連帶義務アル取締役及社

員ノ爲メニモ其債主全額ノ辨償ヲ受ケタル

後之ヲ許可スルモノトス

第八十二條 破産者ニシテ詐偽破産又ハ財産

ニ對スル重輕罪ノ判決ヲ受タルトキハ復權

ヲ許サス

懈怠破産ノ場合ニ於テハ其刑期ヲ終リタル

後又ハ其刑ノ特赦ニ依テノミ復權ヲ許スモ

ノトス

第十一卷 支拂猶豫

第八十三條 商業ヲ爲スニ方リ自己ノ過失ナ

クシテ一時已ヲ得ス支拂停止ヲ爲シタル者

ハ其取引人タル債主ノ過半数ノ承諾ヲ經住

地ノ裁判所ノ許可ヲ以テ之ニ對スル負債ニ

就キ一ケ年以内ノ支拂猶豫ヲ得可シ

第八十四條 支拂猶豫申立書ニ添フ可キモノ

左ノ如シ

一 支拂停止ノ原因ノ詳細書

二 貸借對照表、財産目錄及住地ト要求額ト

ヲ附記シタル債主ノ名簿

三 債主ニ其元金及付屬金ヲ辨償スルノ方

法及期限并ニ之ニ對シ差出シ得可キ保

證ノ證明書

右申立書ハ其添書ト共ニ公閱ノ爲メ裁判所

ニ備置キ債主集會ノ期日ヲ定メテ之ト共ニ

公告シ債主ハ格別ニ招集セラルヘシ

裁判所ハ假リニ支拂猶豫ヲ許可スルヲ得

第八十五條 債主集會期日ニハ裁判所ヨリ任

シタル主任裁判官ノ上席ヲ以テ負債者ト債

主ノ間ニ支拂猶豫申立ニ係ル會議ヲ開ク可

シ該申立ノ承諾ニハ第六十條ニ記載シタル

過半数ヲ要ス其會議及議決ニ就テハ筆記ヲ

作ル可シ

第八十六條 裁判所ハ主任裁判官ノ供述ニ據

リ其承諾セラレタル支拂猶豫ノ許否ヲ判決

ス可シ○支拂猶豫ハ請願ニ因リ延期スルヲ

得然レモ一年以内ニ限ルモノトス

第八十七條 支拂猶豫確定シタルトキハ負債

者ハ其期限中商業取引上ノ要求ノ爲メニ牽制執行ヲ受ケ及破産宣告ヲ受クルコトナシ但其約束ノ履行及業務ニ就テハ主任裁判官ノ監視ヲ受クルモノトス
 負債者ノ保證人及連帶義務者ノ義務ハ右猶豫ノ爲メニ變スルコトナシ

第八十八條 支拂猶豫承諾ヲ得ス或ハ裁判所

ニ於テ之ヲ棄却シタルトキ又ハ後日負債者ノ詐僞或ハ不正ノ行爲アリタルカ爲メ或ハ法律上ノ要件喪失シタルカ爲メニ廢棄セラ

レタルトキ又ハ負債者其約束ヲ履行セサルトキ又ハ其期限中ニ負債者他ノ債主ヨリ牽制執行ヲ受ク可キトキハ直ニ負債者ニ對シ破産處分ヲ爲ス可シ但支拂猶豫申立ノ日附ヲ以テ支拂停止ノ日ト爲ス

